

ヘルパーは必要です!

本紙では現在、介護職の研修や資格制度の見直しについて「紙上パブリック」を実施しています。国は500時間の介護職員基礎研修や介護福祉士養成課程の見直しを着々と進めています。が、「ヘルパーは必要」。そんな現場の声もあります。皆さんはどう思いますか? (アンケートは下欄。ご協力ください)

3級ヘルパーも戦力 利用者からの指名も

福祉クラブ生協



「資格だけじゃなく、経験も豊富で、利用者から指名も入るベテランたちだ。しかし、今年度中に」

20年前から地域のワーキング・グループと二階に福祉サービスを提供してきた「福祉クラブ生活協同組合」。18の訪問介護事業所のうち9事業所に3級ヘルパーが在籍している。多くは事業創設当初からの、知識も経験も豊かで、利用者から指名も入るベテランたちだ。しかし、今年度中に

2級以上を取らなければ、介護保険サービスを提供出来なくなる。「介護福祉士や基礎研修受講者以外を排除する仕組みにして本当にいいのしょうか」と理事の村上芳子さんは疑問を投げかける。

受講者以外排除に疑問

福祉クラブが日本初の福祉専門生協として横浜市でスタートしたのは1989年。「たとえ高齢になっても障害を持っても地域で暮らし続けられるためのサービスを自分たちで作りたい」と地域の主婦たちが参加するワーキング・

超えている。

18の訪問介護事業所のうち9事業所に20人弱の3級ヘルパーが在籍している。

創設時からベテランだ。

3級の養成研修は昨年度一杯で既に廃止。来年度から2級以上

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

3級ヘルパーが来年度から保険外サービスに絞って活動することに決めたと説明しているところ、

「自費になっ

た。「時間がない」「資格のための資格取得には興味がない」理由は様々だが、利用者からの支持は高い。

制度の見直しに伴いある

レクティブ(以下、ワーコでない)とサービス提供は出てもいいからその人」とレ)と契約して、家事介来なくなる。だが、「2級希望する利用者もいる。取得を」と腰を上げる人は多くない。

3級ヘルパーは、訪問介護のほかにも業種の違うワーコレを掛け持ちして地

外はダメというのは納得がいかないですね」村上さんは最近、団塊の世代が地域に帰ってきていると実感しているという。車の運転が得意な定年後の男性が移動サービスに参加して、「ちょっとしたこと